

---

# ふとっちょ君

久羽 沖

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ふとつちよ君

### 【Nコード】

N6857L

### 【作者名】

久羽 沖

### 【あらすじ】

いじめられっこのふとつちよ君のお話。

ある村に食べるのが大好きな、ふとつちよのふとつちよ君がいました。

村で一番ふとつちよのふとつちよ君は、みんなからいじめられてばかり。

「やい、ふとつちよ。お前でかくてジャマ。」

「やい、ふとつちよ。お前汗かきでキタナイ。」

「やい、ふとつちよ。お前遅いからソコニイロ。」

「まってよ、みんな。」

どすん、どすん、走るふとつちよ君。

たったた。みんなが走って消えていく。

見えなくなったみんなの方を見ると、太陽が沈んできて、ふとつちよ君を赤く染めます。

「やめてよ。」

ふとつちよ君は泣き出しました。

ふとつちよ君の影はどんどん伸びて大きくなります。

「これ以上大きくなりたくないよ。」

ふとつちよ君は悲しくて動けなくなりました。

その日から太陽は沈まなくなりました。

ふとつちよ君はずっと泣き続けています。

するとみんながやってきて、ふとつちよ君の影に入りました。

「おい、ふとつちよ。お前がでかくて助かった。」

「おい、ふとつちよ。お前汗かきだから水をやる。」

「おい、ふとつちよ。お前遅いけど、みんなで待ってやる。」

ふとつちよ君は嬉しくて動けるようになりました。

だけど動きませんでした。

すると太陽は沈みはじめました。

「やめてよ。」

「影がなくなると、みんなどこかに行っちゃう。」

だけど太陽は沈んでしまいました。

そしてみんなどこかに行きました。

でもみんなすぐに戻って来ました。

みんなはふとつちよ君がまだ動けないと思っているのです。

たくさんの食べ物や飲み物を持って来てくれたのです。

ふとつちよ君は泣きながらみんなに謝りました。

そして笑顔でありがとう、と言いました。

ふとつちよ君が今までいじめられていたのはふとつちよだからではないのです。

ふとつちよ君がいつも悲しい顔をしていたからなのです。

太陽が沈むと暗くて見えにくいので、また明日笑って遊びましょう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6857l/>

---

ふとっちょ君

2010年10月9日05時36分発行